

竹下復興大臣ぶら下がり記者会見録
(平成27年5月30日(土) 13:35~13:45 於)兵庫県神戸市)

1. 発言要旨

皆さん御苦労さまでございます。今日は、私がお邪魔をいたしましたのは、東北のことを語り合ってくださいミーティングをこの神戸で開催をさせていただくという会のためにお邪魔をさせていただきました。そして、その一環として大きな災害を受けられました野田北部地域も視察をさせていただき、現地の皆さん方とお話もさせていただきました。東北遅いぞと、もっとやれという厳しい意見も出ておりました。

それから、人と防災未来センターも視察をさせていただき、理事長から様々な体験、あるいはそれを是非後世に伝えていかなければならぬという強い思いも伺わせていただきました。

そして、この会議に参加をさせていただき、私は今お話をいたしましたことは、もう一度東北をよく知っていただきたい。残念ながら、発災当時47万人いらっしゃった避難生活をしていらっしゃる皆さん方、今日ただいまの時点で21万2,000人の方が依然として避難生活をしていらっしゃる。もう4年数か月がたちますが、そういう厳しい現実が引き続き残っているのだということをもう一度、もう一度、東北を知っていただきたいという思いもありました。そして、同じ大震災の被災を受けられました、この阪神・淡路のエリアの皆さん方に、引き続き支援をし続け、つながりを持ち、より深めていただきたいということもお願いをさせていただいたところでございます。

それに先立ちまして、井戸知事、それから神戸市長ともお話をさせていただきました。非常に参考になるお話もいただきました。やはり首長としてどういう点を悩んだのか、あるいはどういう点で、例えば国との折衝で苦労したお話ですとか様々な経験もお話をいただきました。それは是非活かして行ってほしいと、彼らからも要望されましたし、私も真っ正面から受け止めて参考にさせていただきたいと思っておるところでございます。非常に参考になりましたし、更に今開いておりますこのミーティングで、阪神・淡路の被災地の皆さん方に、より東北を知ってもらい、より東北とのかかわりを深めてもらうということができれば、非常に有意義な会議になってくれると確信をいたしております。私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 被災から20年が経過した神戸の町の印象というのはいかがでしょう。

(答) 私は毎週のように東日本の被災地に行っていますが、全然まだ天国と地獄だなど、神戸は相当進んできているなということは、町を歩いていても感じましたし、それから被災して今生活していらっしゃる皆さん方のお話を伺っている中でも、まさにふつつつと自信みたいなものを持っていらっしゃる方もたくさんいらっしゃるなど。東北も一日も早くそういう状況にならなければいけないなという思いを改めて強くしたところですよ。

(問) 神戸でこういった東北ミーティングが開かれて、正に現在も神戸から東北へ支援がされている現状というのはどのように捉えられますか。

(答) 知事もお話になっていましたが、兵庫県全体で百八十数名の方が長期滞在型で今、東北の支援に入っていらっしゃるといことも伺いました。確かにそのとおりです。全国から2,300人近くの市町村OBあるいは県のOBの皆さん方たちが、改めて県職員、市町村職員という形で再雇用をされ派遣もされるという形で、今2,300人近い方が東北の応援に入っていております。その人たちがいなかったら、とてもではないですが、例えば例を挙げますと、年の予算が30億、50億という小さな町が、今500億、800億の仕事を毎年やっておるわけでありまして、外から応援を得なければ、その仕事をこなすことができないという状況にありますので、そういう意味で、特に被災を経験されました神戸の皆さん方、兵庫県の皆さん方の力というのは、大変大きな力になっている。と同時に、信頼を得ているのです。というのは、被災していない地域から入った人に比べますと、被災を経験している皆さん方は、このステージはこういうことが求められているなど、このステージになると次はこういうことが必要になるなどというのが、もう体で自然にお分かりをいただいておりますので、現地での信頼度も抜群でありますし、もうその人たちは自然に体が動く形で、次のステージに向かって動いていただける。これは被災地にとっては物すごくありがたいし、ですから、リーダーとして多くの方々が被災地の復興に携わっていただいているというのを痛感しているところであります。

(問) モニュメント、センター等を視察されましたけれども、記録とか記憶という、今後、東北で何かできることがありましたらお願いします。

(答) 国が直接お手伝いをさせていただく震災を祈念、祈念というのはメモリーではなくてお祈りする場というのは、各県1か所ずつで3か所は国が直接お手伝いをさせていただいて作ってほしいと、こう思っております。やはりあの災害を思い起こし、犠牲になった人たちに改めて思いを致す場というのは必要でありますし、その意味で、今日も公園の中の施設等々を行かせていただきましたが、やはり自然と頭が下がるものでございます。そういうものは人間としてやっている以上、やはり必要であろうということで、国としてもお手伝いをさせていただきたいということを表示いたしております。まだ復興が先でして、まだそこまで東北は行っているわけではありませんが、今日も神戸の慰霊の施設にお邪魔をいたしまして、どうしてもこれは必要だということを改めて痛感いたしました。

(問) 井戸知事、久元市長とお話になって、参考になった点があるとおっしゃったのですが、具体的にどのような点についてでしょうか。

(答) いろいろ参考になりましたよ。被災地の皆さん方の心というのは揺れ動いているので、スピード感がやはり物すごく大事だということを特に井戸知事は強調しておっしゃってございました。それから、財源的に神戸は苦労したのだという、兵庫県は苦労したのだと、いまだに傷跡を引きずっているのだというお話もいただきまして、いやもう20年たっているから、それを補填するわけにはいかないなどいって、ちょっと冗談

を言わせていただいたところはありますけれども、金銭の面、予算の面でも大変苦勞をされたといったような点もお話を聞きまして、参考にさせていただきたいと、こう思ったところであります。

(問) その関連で今回の東北の地元負担の件の話がありましたか。

(答) いや、私のほうから、今こういうことをお願いしていますというお話はしましたが、それについては両氏から何らかのコメントもありませんでした。ただ地元へ行きますと、私は今叱られてばかりいますけれどもね。

(以 上)